

小泉としひろ

小諸未来プロジェクト 政策集



2016年2月12日

小諸ぷらいど

検索



※公式ホームページへのアクセス

小泉としひろ基本政策 2016（検討資料）

こもろ未来プロジェクト

小諸に元気と誇りをとりもどす！ ～創造～

残念ながら現在の小諸は、元気と誇りを失いつつあります。追い打ちをかけるように急激な人口減少と超高齢社会に突入しようとしており、まちの活力がさらに失われてしまうのではないかとの不安や閉塞感が増しています。

しかし、現在の状況をそのままに何もせずに、ただ嘆いてばかりはいられません。

大型公共工事がひと段落ついた今、小諸は、このまま衰退の一途をたどるのか、それとも元気と誇りをとりもどすのか、その選択を迫られる大きな転換期にきているように思われます。

幸いにして、私たちの小諸は先人達が遺してくれた素晴らしい歴史や文化、豊かな自然、産業があります。また、市民ひとり一人が持つ力を高め、結集できれば底知れぬ力を発揮できるはずです。決して諦めてはいけません。

このような時期には、現実を直視し、将来を的確に予測しながら、戦略的に市政運営を行わなければなりません。

また、強い決意と情熱、そして行動力で、時には大胆な政策によって、時代に果敢に挑戦することが必要です。

私は愛する小諸に元気と誇りをとりもどすために、これからの小諸の未来を、誠実に、粘り強く、全力を尽くして取り組んでまいります。

平成 28 年 2 月 12 日

小 泉 俊 博

こもろ未来プロジェクト（基本政策）

【基本姿勢】

1. 民間の発想と着眼点で「ワクワク」する市政を創り、行動します。

送り手である「官」から、受け手である住民主体の「民」の発想へ。柔軟でスピード感のある着眼点で取組み、戦略的かつ効率的な市政運営を進めます。「ワクワク」するような新しいかたちの「こもろ市政」を創り、誠実に行動します。

2. 地域の課題解決に「市民とともに協働」で取り組みます。

「地域のみなさんの持つチカラ」を活かし、行政がそれを増幅していくことが、真の意味での「強い地域づくり」につながると考えます。身近な課題に市民の皆さんと一緒に取り組み、地域の力の向上に努めます。また、努力して頑張っている人や団体、企業を応援する小諸市を創り、まち全体に元気をとりもどします。

3. 政財官産学、「中央との太いパイプ」を市政戦略に活かします。

政財官ならびに産学との連携、そして相互享受をこれまで以上に強化します。自身における過去の経験とネットワーク（人脈）をフルに活用し、中央の政治家・公共団体・大手企業・大学・文化人等とコミュニケーションや互助関係を形成し、中央との太いパイプを市政戦略に活かして小諸市の力に変えます。

【5つの柱】

1. 市役所の改革と健全財政 「しせいを正す」
2. 自治会と市政の連携強化 「絆」
3. 市民が幸福を実感できる市政を実現 「笑顔」
4. 産業振興と起業・就農支援 「攻める」
5. 観光・ブランド活性に向けた情報戦略 「ワクワク」

【実行に向けての方針】

- ① 新規事業であっても既存人材や資産の活用、市民の参加によって費用支出を極力抑える
- ② テレビ番組、新聞記事、インターネット等の費用のかからない無料媒体の徹底活用
- ③ 客観的な「数値」設定を心掛けることにより、「見える化された」目標達成度検証

【具体的な実施時期】

- ★…直ちに取り組むべき政策
- …5~10年先を見越した中長期的な展望の中で実現していく政策

1. 市役所の改革と健全財政 「しせいを正す」

行政書士として 19 年間、行政を相手に仕事をしてきた経験を活かし、小諸市役所が文字通り「市民のために役にたつ所」となるよう市役所の改革を進めます。民間の発想と着眼点で、「行動力」を持って市役所の改革を進め、市民満足度を含めた「日本一の市政」を目指します。

また、大型公共事業がひと段落した今、財政健全化は緊急の課題となっています。あらゆる行政の無駄を省くことはもちろんのこと、「新たな財源確保」に向けた努力を行います。

さらに、野岸小学校の耐震工事未実施の問題、部課長の相次ぐ辞任等、市政に対する市民の不信感は増しています。信頼回復のため、やる気のある職員を登用し、風通しの良い職場環境を整え、各事業や各種帳簿類の再点検と管理体制の強化を行います。

★財政の健全化と「小諸ふるさと市民」（仮想市民 10 万人）の創設等による税収アップ

行政・財政改革による行政のスリム化と小諸の産業振興による税収増を進めます。また、徴税率を上げる努力も同時並行で行い、第 2 次大型公共事業（小学校の建替え等）に備えます。

さらに、新たな財源確保のため、小諸の魅力を全国発信する中で、10 万人を目標に小諸を応援してくれる「小諸ふるさと市民」（仮想市民）を全国に増やし、ふるさと納税やクラウドファンディングを利用して 1 億円以上の税収アップを図ります。

「小諸ふるさと市民」から、さらに「ふるさと大使」を 100 名以上に任命し PR や情報拡散に尽力していただきます。小諸市に呼び込む仕掛けをつくり、観光や農商業に貢献いただき、小諸市との絆を徐々に強くすることで将来の UI ターンによる「実市民化」を促します。

★行政手続の迅速化と「残業ゼロ」を目指します

小諸市の選挙における「開票作業の早さ」は全国一です。これは、市職員の努力と研究の成果による賜物です。しかし、市民に身近である行政手続にこうした気概やノウハウが反映されているかという疑問が残ります。そこで市民サービスの向上を目指し、小諸版「カイゼン方式」による行政手続の迅速化を図り、4 年以内に「市役所満足度」80%以上を獲得することを目指します。

また、職員の適正配置にむけて、PLAN→DO→SEE（計画→配置→検証）のサイクルをより迅速化し、さらには適材適所を厳しく見極め「残業ゼロ」を目指します。

★各種事業と各種帳簿類の「再点検」と「管理体制の再構築」

野岸小学校の耐震工事問題や、市の文化財のずさんな管理に代表されるように、市行

政に対する市民の信頼性が揺らいでいます。徹底的に、各事業や各種帳簿類の再点検を行いウミを出しつくし、至った経過を再検証することで当事者に「なぜか？」の気持ちを植え付け再発の防止を促します。事業の点検強化の体制づくり、今後につながる情報管理のマニュアル化を徹底し、市民の行政に対する信頼をとりもどします。

★各種審議会・委員会での市民の提言を大切に、市政に反映させます

困ったことに、市民参加の審議会や委員会で貴重な意見や提言をいただきながら、「全く市政に反映されない」「何らのリアクションがない」等の話を多く聞きます。市民参加による市政を実現するために真に必要な審議会や委員会のみを実施するようにし、「会議のための会議」といった無駄を省き、質実のある運営とします。市民の皆さまからいただいた提言には期限を設け、担当部署を特定した上で、市長の直轄管理のもと回答又は実施するようにします。

●女性幹部職員や各種審議会・委員会の女性の比率を向上

当然ながら「主役である市民」の半数は女性であり、その気持ちや要望を大切にするためにも、市関連各種機関において女性の比率を適正化することは重要と考えます。市役所の女性幹部職員の増員や各種審議会・委員会の女性比率を、男性同様に資質を厳しく見極めたうえで現状より高めます。そのために、女性も働きやすいよう、子育て支援、介護支援等をさらに強化します。

2. 自治会市政の連携強化 「絆」

市内にある 68 区の自治会は、地域福祉の向上に貢献するとともに、「意見の把握と集約」→「市政に反映」→「まちづくりに参加」という重要な役割があります。この役割を最大限発揮できるよう、「市政」と「自治会」「市民」の連携を強化していくことで、市民の情報共有と拡散、まちづくりへの積極的な参加へつなげていきます。

また、自治会役員の負担増や高齢化による自治会運営が難しくなっている問題などにも対応して参ります。

★「地域担当職員制度」の導入・強化

現在も地域担当職員制度はありますが、全く機能していないとの声をよく聞きます。地域の実情に応じた助言、要望や、課題を御用聞きする仕組みとして、市職員数名を自治会の担当に据え、市政に確実に反映できるようなシステムに変えます。また、自治会役員が過度に負担増にならないよう、一部の事務を担当職員が行うようにします。「地域

に寄り添う人」としての地域担当職員を任命する際には、「気配りが得意」で「心通う人材」を市長自らが面接ならびに選定します。

★「伝統行事応援隊」の設立

市内の各地域にある伝統行事を後世に残し、地域の絆を深め、郷土愛を育むために「伝統行事応援隊」を設立し支援を行います。「地域担当職員」が、市政とのパイプ役や音頭取りを務め、伝統行事の公共性を高めることで活性化につなげます。インターネット上で、「伝統行事応援隊」専用ホームページを立ち上げ、市内外をはじめ全世界に向けても広くアピールしていきます。また、知名度の高くない地域の伝統行事をクローズアップすることで、小諸市の「観光事業の幅広さ」にも結びつけていきます。

★新たな文化や伝統の創出を支援します

小諸の市民や団体が創出するアニメやインターネット動画といった新たな文化や、再認識や再発見される景観や伝統、行事、文学、芸術などを積極的に支援していきます。市が共催・協力する形式で、コンクールやコンテストなどを開催し、紹介・アピールする機会を提供します。また、市が発行する広報誌での取り上げや、公式ホームページからのリンク、民間報道機関での記事化を促進するサポートなども行います。

●自治会の見直し

将来、高齢化や区民の減少など様々な要因により、自治会の維持存続が難しくなった場合には、自治会の見直しを行います。その際には地域担当職員が、身近な相談役として取りまとめにあたり、地域住民の民意を市政とともに具現化していきます。

●郷土愛の醸成

他の市町村にない小諸の魅力のひとつである伝統文化自然を学習する機会を学校教育や文化活動に積極的に取り入れ、郷土愛を育みます。また、年長者を中心とした「こもろ郷土の語り部」を任命し、「ひと」から「ひと」へ郷土の魅力を伝えていきます。商工会議所等の協力により、「小諸・・・もの知り・こと知り・・・検定」の創設も検討し、「小諸ふるさと市民」「ふるさと大使」との連動を図り、相乗効果による活性化を狙います。

3. 市民が幸福を実感できる市政を実現 「笑顔」

市民の誰もがいのちを大切にし、いのちを大切にされ、いのちを繋ぐことを究極の目標とします。そして、小さな子どもから高齢者まで全ての市民が幸福を実感できる市政を実現していきます。また、市民ひとり一人が自ら考え行動できる人間力を備え、その個性や能力を十分に発揮できる社会にします。

★「健康長寿日本一こもろ」を目指す～高齢者福祉の充実

さらなる高齢化社会に向け、安心安全に暮らせる地域を目指し、地域包括ケアの充実を図ります。医療と介護の連携の促進、在宅介護の充実、地域づくりを進めます。健康寿命を延ばす健康づくり、高齢者のスポーツや文化活動を応援します。また、「笑う」ことが長寿の秘訣という超長寿の方も多くおられます。高齢者が集い、語り、笑える場の提供や機会づくりをサポートしていきます。

★ライフステージに応じた健康づくりを推進します

保健医療関係者や企業団体などと連携して、生活習慣病を予防するために、定期健診や食生活の改善等をより促進し、健康で長生きできる市を目指します。

特に市民の健康づくりを推し進めるためには30億円を拠出した厚生病院の協力を求めることはもちろん、市内の医療機関や介護施設にも協力を仰ぎます。そして将来的には医療費や介護費用の抑制により、子育て支援等の財源確保を目指します。

★婚活事業の支援

民間のボランティア団体や行政、企業、地域が連携をし「こもろ婚活推進連絡協議会（仮称）」を設置します。結婚に対する意識の向上や未婚者の出会いの機会を増やすとともに結婚しやすい環境づくりをおこないます。また、若年層が都心などの市外へ流出していく傾向が強いなか、大学生や若年層をイベントやセミナーなどで誘引し、市民との婚姻機会を増やす一助としていきます。

★子育て支援・家庭教育支援

子育てにかかる経済的負担の軽減を図るため幼稚園、保育園の教育費の公費負担の充実や、学習意欲のある子どもに対する短期留学や奨学金制度の充実を図ります。

また、教育の原点ともいえる家庭教育がしっかりと行えるように、子育て世代に対し、しつけや子育てに関する悩みや相談に応える学習会や相談室を設けます。また、民間ボランティアによる「おばちゃん・おじいちゃんの子育て相談室」（仮称）を創設し、支

援していきます。

★特別支援教育の充実

特別支援学級や特別支援学校において、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供し、自立と社会参加を見据えた支援を推進します。その際には、ヘッドとなる指導者の資質向上を徹底的に図り、先輩プロフェッショナルが後輩プロフェッショナルを生む、好循環を確立します。

★早期からの教育相談・支援の充実を図ります

少子化に反比例して増加している発達支援等が必要な子どもを早期発見し、乳児期から幼児期にかけて、子どもが専門的な教育相談・支援が受けられるよう、幼稚園等をはじめ医療、保健、福祉との連携体制を確立します。

★災害に強い町づくり

市役所内の危機管理体制の充実を図るとともに、消防署や消防団の協力をいただき地域の自主的な防災力を充実させます。また、「地域担当職員」による地域住民への聞き取りや各種情報収集により、「現場主義」で災害を未然に防ぐ体制づくりを行います。

●基礎学習の充実

昔からいわれる「読み書きそろばん」は、自立するために必要な基礎学力です。特に幼・保・小学校低学年を対象とした「読み聞かせ」による読書の習慣化や算数などの基礎教育の充実を図ります。併せて、家庭といった日常生活内での基礎学習の重要性を、親側にも認識してもらうため、セミナーや実践レッスンを開催しサポートします。

●生涯学習の支援

社会人や高齢者が生涯にわたり学ぶ喜びを忘れずに生き活きとした人生をおくるため、市民大学の充実や趣味のサークルなどを応援します。また、大学と連携したセミナーやゼミナールの開催など、若年層との接点づくりの機会も提供していきます。

●小学校建替えに向けた議論

財政難や少子化の中にあって現実を直視しながら、しっかりと時間をかけて地域の皆さんの想いを受けとめ、来るべき小学校の統廃合・建替え問題の議論を進めていきます。

●スポーツの振興

2020年の東京五輪を見据え、小諸の自然環境やスポーツ医療を活かした「高地トレーニング」や「寒冷地トレーニング」を行うスポーツ団体等の誘致を積極的に行います。またスポーツ振興による体力づくりや人間形成に重きを置き、指導者の育成などの支援も行います。

4. 産業振興と起業・就農支援 「攻める」

働く場を創出し、豊かな生活を送るために、戦略的に産業振興の支援を行います。このことは、子育てや教育環境の充実、まちづくりの推進、税収アップなどにも直結し、ひいては小諸の人口減少対策にもなります。魅力ある「商都・農都・住都・小諸」をつくることへの、強い推進力としていきます。

★中小企業支援の充実

企業誘致も継続的に行いますが不確定要素も多々あることも現実です。そこで、市内の大多数を占める中小企業の振興を図ることを第一に商工会議所などと連携し、成長分野へのシフト支援やマッチングによる新規事業の推進、受注機会の拡大、経済環境の急激な変化に伴う緊急支援策の充実等を行います。

★6次産業（1次×2次×3次）のさらなる推進

6次産業とは1次産業・2次産業・3次産業さらには「学」「官」が有機的に連携することで新しい産業やサービスを生み出すことです。こうした取り組みの推進を図ることで、小諸ブランドの創出や観光産業の振興に結びつけるとともに、新たな雇用も創出します。

★新規就農者の支援と遊休農地の活用

市内外の新規就農者の支援を充実させるとともに、遊休農地を借受け集約し、意欲ある農業者に貸し出し再生、有効活用を行います。その際にも、「地域担当職員」による情報収集や聞き取りを的確に行い、実態に則した支援を行っていきます。

★女性が活躍できる職場づくり

女性が個性や能力を発揮して希望する活躍が実現できるよう、環境改善に取り組みます。市役所はもちろん、市内の企業にも女性の幹部登用を促します。「こもろ輝く女性」

(仮称) 制度を導入し就労支援はもちろんのこと、「働く女性」「子育てする女性」「学ぶ女性」など広報誌やインターネット上でも紹介していきます。

★若者や女性のU I ターン施策の充実

県外等に進学した女性や若者の就職活動時に、小諸へU I ターンしてもらえるよう、市内の企業を紹介したり、きめ細かな相談や居住などに対する支援を行います。

また、若者や女性の起業家を積極的に応援するため、専門家によるカウンセリングやコンサルティングの場を設けます。また、市外に対しインターネットを使った積極的な情報拡散を行い、若者や女性にとって「気になる都市」としての位置づけを獲得します。

●産業人材の育成

中小企業や地場産業、農業の人材育成や後継者の育成、事業承継のための支援を積極的に行います。そのため、商工会議所や県農業大学校、JA 等と連携を強化していきます。

また、商都にふさわしい、経営・マーケティング系大学を招聘したセミナーやグループワークなどを継続的に開催していきます。

●「小諸ふるさとブランド」の立ち上げ

農商工業者とマーケティング専門家との協働により、「小諸ふるさとブランド」を創造し・強化をはかります。世界とつながるインターネットをフル活用するとともに、市外に 100 人点在する「ふるさと小諸大使」との連携もはかります。また、小諸市へのふるさと納税の目玉商品として位置づけます。こうした「小諸ふるさとブランド」創生による経済効果を、年間 1 億円以上を目標とします。

●“食”をテーマにしたフードテーマパークをつくります

飲食店や観光業者、農商業者と連携して、「安心安全で美味しい食を提供する小諸」を前面に打ち出した、町全体をフードテーマパーク化する仕組みを創り、賑わいをつくります。小諸や近隣市町を訪れる観光客（例えば軽井沢を訪れる年間 800 万人）をメインのターゲットにして、年間 20 万人以上の新規導入を目指します。

●「産」・「学」・「官」協働での産業振興

さまざまな視点からの知恵やノウハウを取り入れることで、競争力のあるオリジナリティあふれる産業振興に取り組みます。特に、「学」については、産業に強く実践的な大学と手を組むことで、即効性と現実性の高い展開が見込めます。そのなかで、市政が受け皿をつくり、調整役としてバックアップしていきます。

5. 観光・ブランド活性に向けた情報戦略 「ワクワク」

小諸のもつ観光資源を活かすために意欲ある多くの市民が参画できる仕組みをつくり
ます。また、観光に限らず産業振興等により創出した小諸の魅力を戦略的に国内外に情
報発信することで、流動人口のみならず定住人口の促進を図り、経済効果も狙います。
さらに情報収集活動にも力を入れ、有益な補助金等を活用できるようにします。

「小諸」の全国「知名度」80%以上、「訪れたい・住みたい率」を全国で30%以上を4
年後の目標とします。また、外国人に人気の「トリップアドバイザー」の観光地スポッ
トとしての掲載を図り、「国際観光都市」としてインバウンドを獲得します。

★戦略的な情報発信・収集を行う「こもろ情報部局」を設置します

現在も市役所から様々な形で情報発信がなされていますが、今後は専門家の力も借り
て、より戦略的に情報発信や情報収集を行うような部局を設けます。これにより魅力的
な小諸を国内外に情報発信するとともに有益な補助金などの情報も収集し積極的に取り
組めます。

★知名度向上・観光客誘致のためのPR動画作成

広告のような媒体費を一切かけない方法で、小諸PR動画を制作し全国レベルでの拡
散を狙います。他自治体の成功事例にならい、制作費のみの投資で3億円分の媒体露出
(PR効果)を目指し、プロフェッショナルの指導のもと関係者が知恵を絞り完成させ
ます。ストーリー感があり、話題性を獲得することで、小諸を広くアピールし活性化に
つなげていきます。

●官民協働による「こもろ観光局2020」を設置します

「こもろ観光局」は、小諸市観光協会を中心として、宿泊・観光事業者のみならず、
農商工事業者・市民団体など意欲のある多くの市民、「小諸ふるさと市民」などが参画し、
訪れるお客様が小諸の魅力を体感できるような取り組みを行います。特に2020年の東京
オリンピックで日本を訪れる国内外の観光客に滞在型・体験型の観光をしていただくよ
うな国際的な対応ができる仕組みや、各種スポーツ競技のキャンプを誘致
し、新たな雇用や経済効果につなげます。

●しなの鉄道との連携強化・市民バスの浅間山麓共同運行

しなの鉄道の[軽井沢⇄小諸]間は、社会実験を経て大幅に運行数が増加(1時間に1

本のペース) し、アクセスの利便性が飛躍的に向上されています。軽井沢から小諸駅で下車する乗客に対し、しなの鉄道切符への補助、小諸ゆかりグッズの進呈などで、軽井沢を訪れる年間 800 万人のうちの 1 / 4 を目安に 200 万人の集客増を目指します。

また、軽井沢町・御代田町・小諸市・東御市・佐久市などが連携することで、地域循環バスを設定し運行。小諸にとっては、軽井沢からの誘客や佐久平駅とのアクセス改善をメリットとします。小諸のみの「点」での発想から、浅間山麓を「面」として捉え、「観光ゾーン」としての強化を図ります。

.....

◎皆さまのご意見・感想をお聞かせください。

小泉としひろ後援会事務所

〒384-0808 小諸市御影新田 2 5 2 9 番地 1

TEL&FAX 0267 (23) 8788

公式ホームページ 「小諸ぷらいど」で検索

(<http://koizumi.vpweb.jp/default.html>)

Facebook 小諸ぷらいど 小泉としひろ応援隊

(<https://www.facebook.com/komoropride/>)

E-mail koizumi@ctknet.ne.jp